

目標達成計画

作成日：平成 12年 3月 12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練は行っているも職員が全員参加ができない。参加していても夜間等いざと言うときに不安がある。そのようなときの動き、利用者の避難誘導や持ち出すものの再確認。	火事、地震時の対応を職員が日頃から反復しいざと言うときに備える。また、夜間一人での誘導等に関するマニュアルの再確認をしていく。	・火災持通報する通報機の操作手順を詳細に書き、掲示をする(女の職員でも理解できるように) ・利用者の誘導、職員の動きの再確認。特に夜間。 ・持ち出し袋や救急セット等の中味を点検し、置き場所をしっかりと決める。	3ヶ月
2	34	マニュアルはあるも応急手当や、初期対応訓練を行っていない。	応急手当の訓練をすることをはじめ急変時慌てないようにする。また災害時少しでも役立つようになるために知識や行動力を持つ。	・マニュアルを会議等で再確認する。 ・訓練を全員で行っていきより良い手当の方法や対応を身につける。	3ヶ月
3	6	身体拘束をしないケアの実施・・・玄関の施錠や危険行為時のスピーチロック	利用者の様子を見ながら日単位でも良いので玄関を開錠する。また、危険行為に対してスピーチロックをせず、職員が体を動かし傍で危険行為を止めていく	・その日の状態を見ながら利用者が落ち着いているときは時間ごとでも良いので開錠をしていく。 ・職員が常に全体を見渡せる場所に立ち、危険行為等が早く見つけられるようにしその場所へ動ける状態を作る。	6ヶ月
4	25	一人一人の暮らしの現状を把握していくことに努めているがもっとできることがないか観察をしていきより良い日々を送れないか。	一人一人を客観的に見つめていき、現状を把握し、持っている力等を見つけ出し心身の維持や向上を図る。	・今の参加自由の体操を声かけ等で全員参加にし、体の柔軟性等の保持をする。 ・自己訓練で利用者の動きや話の意図をすばやく把握する力をつける。 ・利用者の可能性を掘り出すことを心がけ、失敗を恐れないで楽しく実行してみる。	6ヶ月
5	27	個人記録を今以上に充実させる。	利用者同士の会話や日常での変化のきっかけになった出来事を誰でも判るように記入し、またケアプランに基づいた様子の観察や申し送りで問題になっていることをしっかりと記入する。	・必ず、ケアプランに目を通してから記録を書く。 ・申し送りに対し、ひき続き観察するポイントを職員同士で話し合って記録に落とす。	3ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。